

3月15日のレッスン

他者への与え

キー・ヴァース：「この地には貧しい者が常にいる。だから、貧しい者や困窮している同胞に惜しみなく分け与えよと命じる。」

申命記15:11

聖句抜粋：

申命記 15:4-11

申命記は神の律法全体の要約と評される。ほぼ全編が、神がモーセを通してイスラエル人に与えた戒めと指示を繰り返し述べている。神はイスラエルに律法を、従うべき指示として与えられた。モーセの次の言葉は、神の律法がいわば人生の生き方を示す手引書であることを示している。「主は、これらのすべての定めを私たちに守らせ、私たちの神、主を畏れるように命じられた。それは、私たちの益となり、今日のように私たちを生かしておられるためである。」申命記6:24

神の慈しみを背景に、モーセを通してイスラエルに告げられたのは、もし民が神の命令に従うならば、イスラエルに貧困は決して存在し得ないということである。今回の箇所は申命記の中で礼拝に関する様々な指示に焦点を当てた部分に位置づけられる。前章では動物を清いものと汚れたものに分け、十分の一献金の指示を与えている。次章で

は過越の祭り（ ）やイスラエルの礼拝暦における他の祭りのことが論じられている。

申命記15章は、後にイザヤ書58章6-7節に見られる神の言葉を予示していると見なせる。そこでは神が礼拝に求めるものをこう述べている：「わたしが選ぶ断食とは、悪のきずなを解き、重い荷をほどこき、虐げられた者を自由にし、あらゆるくびきを砕くことではないか。 飢えた者にあなたのパンを分け与え、追い出された貧しい者をあなたの家に招き入れ、裸の者を覆い、あなたの肉親から目を背けないことではないか」

この教えは、イスラエル人が神への礼拝として生きるべき道を示している。彼らは七年ごとに安息年を守り、その時には借金を赦さねばならなかった（申命記15:1-3）。彼らは心を解き放ち、手を差し伸べて、困窮する者たちの不足を補うべきであった。（申命記15:7-10）条件は一切設けられなかった。必要があれば、それを満たすべきであった。神の命令を忠実に守るならば、彼らの間には貧しい者は存在しないはずだった。

旧約聖書において、主はイスラエル人に、御自身とその律法への従順と忠誠の報いとして、地上の繁栄を明確に約束された。この約束は、イエスの働きによって起こった時代区分（ディスペンセーション）の変化という事実を認めない者たちにとって、つまずきの石となってきた。多くの者が誤って、この繁栄の約束をクリスチャンに適用し、この誤りが心の混乱を招いてきた。

現世における地上の繁栄は、忠実なクリスチャンに約束されているものではない。ゆえに、使徒ヨ

ハネが教える愛の律法を他者に対して実践しよう。「イエス・キリストは私たちのために命を捨てられた。 私たちも兄弟姉妹のために命を捨てるべきです。もし誰かが物質的な財産を持ちながら、困窮している兄弟姉妹を見て憐れみを示さないなら、どうしてその人に神の愛があると言えるのでしょうか。愛する子供たちよ、言葉や口先だけで愛するのではなく、行動と真実をもって愛しましょう。」ヨハネの手紙一 3:16-18